

まちさんぽ 街散歩

“夜の街”の新たな
一面を求めて—赤坂

“赤坂”といっても、実はとても広い。通りを1本隔てた永田町だって、橋向こうの紀尾井町だって、“赤坂”といっても過言ではない。現に、どちらも“赤坂”を冠するホテルがあるではないか—そんなへりくつを唱えつつ、「夜の街」だけではない“赤坂”を探すため、ひとまず街へ出た。



豊川稲荷

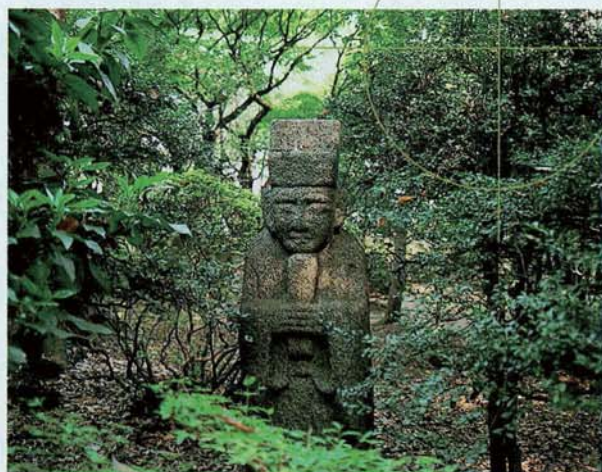
TVなどでお馴染みの名町奉行“大岡越前守忠相”が三河国妙巖寺の茶枳尼真天(だきにしんてん)を自らの邸に勧請したのが始まり。越前守にちなんで、開運出世や盗難除けを願う人々の信仰を集めている。境内にある「千本幟」を奉納すると、千日の功德行願に当たると言われている。

高橋是清翁記念公園



高層ホテル群

左から、ホテルニューオータニタワー、ニューオータニガーデンコート、赤坂プリンスホテル新館。弁慶堀沿いに建つ、これらの高層ホテル群は圧巻。ちなみに、ホテルニューオータニの回遊式庭園は、宿泊客以外でも自由に出入りができる。中には滝もあり、ホッと一息つける隠れた名所である。



昭和11年の二・二六事件で暗殺された、蔵相・高橋是清の邸宅跡。園内には、是清翁の銅像をはじめ、石像や石灯籠が置かれている。ただし、この石像が何を意味するのかは不明……。

赤坂には、実に坂が多い。数ある坂の中でも、赤坂という地名の由来になったといわれる紀伊国坂を目指し、赤坂見附の交差点を後にした。弁慶堀沿いに歩いていくと、途中から紀伊国坂に合流する。頭上を走る高速道路に、最初は圧迫感を感じていたが、ニューオータニの緑と弁慶堀の眺めのよさに、そんなことはすっかり忘れてしまった。

お堀の眺めを満喫した後、別名・鉄砲坂とも呼ばれる九郎九坂を通過して、豊川稲荷へ。時代劇でお馴染みの南町奉行・大岡越前守、縁の場所だ。中でも、境内の一角にある「千本幟」は圧巻。紅白の幟が整然と並べられ、所々にあるお狐さまと共に、不思議な空間を創り出す。ここだけ、タイムスリップをしたような気分だ。

豊川稲荷を出て、青山通り沿いに歩く。車の騒音で、ようやく現実の感覚が戻ってくる。少し歩くと、外観に特徴のある建物とカナダの国旗が見えてきた。カナダ大使館だ。4階のカナダ・ガーデンと呼ばれるテラスと、地下2階のギャラリー、ライブラリーは、一般にも公開されている。大使館を、常時一般公開するのは珍しい。一見の価値はある。

大使館の隣には、二・二六事件で暗殺された高橋是清翁の記念公園がある。ここで、ちょっと休憩。辺りを見回すと、決して広い公園ではないのに、スーツ姿のサラリーマン、学生、バイク便のお兄さんなど、いろんな人達がくつろいでいる。うっそうと茂る緑が光を遮り、少し不気味な感じすら覚えるというのに、彼らにとって、ここは、ささやかなりラクゼーションの場なのかもしれない。

足の疲れが取れたところで、今度は旧乃木邸を目指す。高級マンションの間を縫うようにして歩いていくと、大きな坂にぶつかる。乃木坂だ。坂沿いに、乃木神社、その隣には乃木公園がある。神社に参拝し、公園内の旧乃木邸へ。木造の住居とレンガ造りの馬小屋が、今でもそのまま残されている。2人の息子を自ら指揮する戦争で亡くし、夫婦で質素な余生を送っていた乃木大将。どんな気持ちで、夫人とともに殉死を選んだのか——少し胸が締めつけられるような気がした。

華やかな夜の赤坂とは違う一面を知る、今回の街散歩であった。

参考文献：「港区史跡散歩」(学生社)



旧乃木邸馬小屋

明治天皇の大葬の日、夫人と共に殉死した軍人・乃木大将の旧邸宅にある馬小屋。木造の邸宅に対し、馬小屋がレンガ造りで豪華と評判になったという。隣接して乃木神社が建てられ、神社前の坂は、幽霊坂から乃木坂に改称された。

弁慶堀



旧江戸城の外堀の一つで、紀伊国坂沿いにある。江戸時代は淋しいところで、堀の西北端には、小泉八雲の「のっぺらぼう」にも取り上げられた喰違見付がある。貸ボートでルアー釣りを楽しむ人達の中には、なぜかスーツ姿の人も…。

赤坂東急プラザ



赤坂見附交差点横にある赤坂東急プラザ。2階部分で、店舗とホテル(3階以上)がつながっている構造は、昭和40年代では非常に珍しいものだったという。現在、外堀通りに面した2階部分は、オープンコリドールと呼ばれ、四季折々の花が咲き乱れる憩いの場となっている。

カナダ大使館

平成3年にオープンしたカナダ大使館の新庁舎「プラス・カナダ」。4階の受付入口では、2本のトーテム・ポールがお出迎え。地下2階には、ギャラリーとアジア最大のカナダ研究ライブラリーがあり、一般公開されている。

何だこれは？



裏通りの長い石段を登ったところに、なぜかカエルくん。知る人ぞ知る、街のマスコット?!